



サウジアラビア：サルマーン新政権の発足・国民への給付金の支給

1月29日、サルマーン国王は人事異動・行政機構改革・国民への給付金支給・恩赦の発出などに関する勅令34本を発出した。主な概要は以下のとおり。

(1) 内閣改造

図：新内閣のメンバー一覧（序列順）

新/留	名前	ポスト	その他
留	ムクリン・アブドゥルアジーズ・アール=サウード	皇太子・副首相	王族(第2世代)
留	ムハンマド・ナーフ・アブドゥルアジーズ・アール=サウード	副皇太子・第二副首相・内相	王族(第3世代)、ナーフ元皇太子の息子、ステイリ家
留	サウード・ファイサル・アブドゥルアジーズ・アール=サウード	外相	王族(第3世代)、ファイサル元国王の息子
新	マンスール・ムトイブ・アブドゥルアジーズ・アール=サウード	国務相・国王顧問	王族(第3世代)、前都市村落相
留	ムトイブ・アブドゥッラー・アブドゥルアジーズ・アール=サウード	国家警備隊相	王族(第3世代)、アブドゥッラー前国王の息子
留	ムハンマド・サルマーン・アブドゥルアジーズ・アール=サウード	国防相	王族(第3世代)、サルマーン国王の息子、ステイリ家
新	サーリフ・アブドゥルアジーズ・ムハンマド・イブラーヒーム・アール=アル=シャイフ	イスラーム事項・寄進・宣教・善導相	シャイフ家、元イスラーム事項相(1996-2014年12月)
新	ワリード・ムハンマド・サーリフ・サマアニー	司法相	博士
留	ムトラブ・アブドゥッラー・ナフィーサ	国務相	博士、1995年から現職
留	ムサーイド・ムハンマド・アイバーン	国務相	博士、1995年から現職
留	アリー・イブラーヒーム・ヌアイミー	石油・鉱物資源相	1995年から現職
留	イブラーヒーム・アブドゥルアジーズ・アサーフ	財務相	博士、1996年から現職
留	アブドゥッラー・アブドゥルラフマン・フサイン	水・電気相	2004年から現職
留	アーディル・ムハンマド・アブドゥルカーディル・ファキーフ	労働相	2010年から現職

留	シュワイシュ・サ우드・ドゥワイヒー	住宅相	博士、2011年から現職
留	バンドル・ムハンマド・ハムザ・アス アド・ハッジャー	巡礼相	博士、2011年から現職
留	ムハンマド・スライマーン・ムハンマ ド・ジャーシル	経済・計画相	博士、2011年から現職
留	タウフィーク・ファウザーン・ムハン マド・ラビーア	商工相	博士、2011年から現職
留	ムハンマド・ファイサル・ジャービル・ アブー・サーク	国務相(諮問議会 担当)	2014年から現職
留	イサーム・サアド・サイド	国務相	博士、2014年から現職
留	アブドゥッラー・アブドゥルラフマン・ ムクビル	運輸相	2014年から現職
新	ムハンマド・イブラーヒーム・スワイ ル	通信・IT相	博士
新	マージド・アブドゥッラー・クサイビー	社会問題相	博士
新	サアド・ハーリド・サアドゥッラー・ジ ャブリー	国務相	博士
新	ムハンマド・アブドゥルマリク・アブド ゥッラー・アール=シャイフ	国務相	シャイフ家
新	アブドゥルラティーフ・アブドゥルマリ ク・ウマル・アール=シャイフ	都市村落相	シャイフ家
新	アフマド・アキール・ハティーブ	保健相	
新	ハーリド・アブドゥッラー・アラジュ	公務員相	
新	アーデル・ザード・トゥライフィー	文化・情報相	博士
新	アブドゥルラフマン・アブドゥルムフ シン・ファドリー	農業相	
新	アッザーム・ムハンマド・ダヒール	教育相	博士 ※今回の勅令で高等教育省と教育省 が統合

## (2) その他重要人事・行政機構改革

- ・ 国家安全保障会議（NSC）、最高教育評議会など12の評議会を廃止
- ・ 政治・安全保障評議会（第二副首相が議長）、経済・開発評議会（ムハンマド・サルマーン国防相が議長）の設置
- ・ ミシュアル・アブドゥッラー・マッカ州知事を解任し、ハーリド・ファイサル（前教育相）を任命
- ・ ファイサル・バンドル・カシーム州知事を解任し、ファイサル・ミシュアル（前カシーム州副知事）を任命
- ・ トゥルキー・アブドゥッラー・リヤード州知事を解任し、ファイサル・バンドル（前カシー

ム州知事) を任命

- ・バンダル・スルターン国家安全保障会議事務総長兼国王特使を解任
- ・ハーリド・バンダル総合情報庁長官を解任し、ハーリド・アリー・フマイダーン(前副長官)を任命

### (3) 国民への給付金の支給

- ・国家公務員(軍人含む)に基本給2カ月分の給付金を支給
- ・公教育を受けている全ての学生(留学生含む)に2カ月分の褒賞を支給
- ・退職者に2カ月分の年金を支給
- ・社会保障の対象者、障害者に2カ月分の給付金を支給
- ・社会保障関係機関、スポーツ・クラブなどへの助成金の支給
- ・電気・水サービスへの200億リアルの拠出

## 評価

34 本の勅令の発出により、サルマーン国王による新たな政治体制が発足した。主要人事のなかで興味深い動きは、アブドゥッラー前国王の息子2人が州知事から解任されたことである。ムトイブ国家警備隊相は留任となったものの、既に彼は王位継承ラインから外されることになっており(詳細は以下を参照 [「サウジアラビア: ムハンマド・ナーフ内相の副皇太子任命」『中東かわら版』No. 234 \(2015年1月24日\)](#))、アブドゥッラー一家にとって不満の募る人事が進められている。また、国防関係でもバンダル・スルターン国家安全保障会議(NSC)事務総長、ハーリド・バンダル総合情報庁長官が解任されたことは、相対的に新国防相のムハンマド・サルマーンの権限が強まる人事であろう。これが、王族内の勢力争いにどのような影響を与えるのか、注視していく必要がある。なお、新カシーム州知事のファイサル・ミシュアルは、サウード第2代国王の孫で、初代国王の曾孫に当たる第4世代である。1959年生まれと大半の第3世代の王族よりも年長であるが、王族間における人事の配分はより複雑な様相を呈している。

新人事の顔ぶれもさることながら、12の専門評議会が廃止されたことは非常に大きな動きであった。廃止された評議会のなかには教育政策高等委員会、高等教育・大学評議会、最高教育評議会のような、所掌が重複すると思われる評議会が含まれており、教育省と高等教育省の統合と合わせて、行政の効率化が図られる契機となるかもしれない。石油・資源最高評議会、最高経済評議会など経済関係の評議会・委員会も、新たに設立された経済・開発評議会の下に再編される可能性が高い。他方、国家安全保障会議(NSC)が廃止され、政治・安全保障評議会が設立された。NSCのメンバーでなかったイスラーム事項相、文化・情報相が新たに加わったことは、国内の過激派対策を重視する現れかもしれない。しかし、議長・副議長を国王・皇太子が務めていたNSCと比べると、副皇太子を議長とする新たな評議会の役割はこれまでと異なるものが想定されている可能性もある。

(村上研究員)

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会HPをご覧ください。URL: <http://www.meij.or.jp/>